

胸部CT（低線量肺CT）検査の事前説明書

～必ず読んでください～

【胸部CT（低線量肺CT）検査について】

1. 検査の目的

肺がん等の肺疾患を早期に発見することです。

2. 検査の方法など

最新型 320 列CTで放射線被ばくを低減した胸部CT検査（低線量肺CT検査）を行います。被ばく線量は、胸部X線検査の約 10 倍ですが、従来のCT検査の約 4 分の 1、胃のバリウム検査の 2 分の 1 以下です。胸部CT検査（低線量肺CT検査）を受けて被ばくしたことにより、新たにがんが発生したという報告は今のところありません。

「放射線科医」が読影し診断をします。過去に他院で胸部CT検査を受けたことがある方は、可能であればその画像をご持参ください。検査結果は、3週間以内に郵送でお知らせします。この検査の結果、詳しい検査が必要と判定された場合には、結果通知書と健康保険証をご持参の上、呼吸器外来等を受診してください。

3. 検査費用

検査費用 18,900 円（※ 喀痰細胞診と同時に行う場合は 20,000 円）精密検査が必要と診断された場合には、それ以後の診療は保険診療になります。

4. 検査の利点

この検査で、肺がんが早期に発見された場合、早期に適切な治療を受けることができ、その肺がんによって死亡することを回避できる可能性があります。また、肺がん以外の呼吸器の疾患（結核、肺気腫、気管支拡張症など）や、肺以外の疾患（胸部大動脈瘤、胸腺腫など）が発見されることもあります。

5. 検査の欠点

喫煙習慣のある人や過去に喫煙歴のある人を対象に胸部CT検査を行うと、3～6割の人に何らかの異常所見が見つかることが報告されています。この検査で異常が見つかったとしても、結果的に肺がんでないこともあり、異常な影のなかには肺がんと非常にまぎらわしいものもあります。肺がんか否か診断するために、気管支鏡生検などの精密検査や、定期的な経過観察が必要となることがあります。

6. 検査全体に関わる重要な事項

検査結果が陰性であっても、これ以降、肺がんにならないというわけではありません。進行の速い肺がんの場合、次回の検査までの間に自覚症状で見つかることもあります。太い気管支に発生する肺門型肺がんや、進行が非常に速い小細胞肺がんなど、低線量肺CT検査では発見されにくい種類の肺がんもあります。

※ この検査結果については、外部の専門家による審査を受けたり、公表（学会発表、論文化）したりする場合があることをご了解ください。もちろん、受診者の方々の個人情報に関しては、守秘義務を遵守し、作業のいかなる段階においても個人名が公表されることはありません。

肺がんの危険因子第一位は喫煙です。たばこを吸う人は、吸わない人に比べて男性では4.8倍、女性では3.9倍、肺がんになりやすいとされています。また欧米では20倍ともいわれています。喫煙は、肺がんだけでなく他のがんになる危険性も高くなります。

たばこを吸う人は1日も早く禁煙しましょう。なお、喫煙量の多い人で痰の出る人は、併せて喀痰検査もお勧めします。

この「事前説明書」の内容を承諾の上で、検査を受けます。

平成 年 月 日 本人署名 _____